

開設年度		開講部局	
2015		共通教育	
科目名			
子どもの発達と地域			
英語科目名			
Development of children and community			
前後期	開講区分	科目形態	単位数
後期	毎週	講義	2
(25年度以降入学生)中分類		(25年度以降入学生)小分類	
b. 知力：人文・社会科学		12. 社会を学ぶ	
(24年度以前入学生)大区分		(24年度以前入学生)中区分	
教養科目		分野2	
受講学部学科			
全学部全学科			
担当教員		担当教員所属	
神田嘉延		稲盛アカデミー	
連絡先 (TEL)		連絡先 (MAIL)	
099 - 285 - 3755		k6820452@kadai.jp	
オフィスアワー (授業時間外の対応)			
水曜日 14時30分から16時			
共同担当教員			
なし			
メインキーワード		サブキーワード	
社会問題への理解と実践			
授業概要 (目的・内容・方法)			
<p>子どもの発達を地域から考えることを目的とし、内容は稲盛和夫の創設した大和の家の教育から地域教育を講義する。大和の家は、地域の子育てセンターの役割を果たした児童養護施設である。稲盛和夫の考えによって創設したものである。稲盛和夫の人間観や子供観のもとにつくられたものである。鹿児島での稲盛和夫の生育史も大きな影響がある。この意味で、西田小学校の校区の歴史や郷中教育を話す。稲盛和夫ばかりではなく、日本の企業経営者の大原孫三郎と石井十次の児童福祉の運動も、企業経営者の社会貢献の役割として話す。子どもの発達問題は、貧困問題と深くかかわっている。地域の暮らしから子どもの発達を考えていくことは大切な課題である。鹿児島は、多くの農村や離島をかかえ、そこでの教育問題も大きな課題であり、むしろ、それを積極的にとらえ、農業や農村の教育的役割を明らかにした講義をする。京セラの国分工場は、地域貢献として、環境出前授業を積極的に展開しているが、これは、鹿児島の自然と環境を積極的に生かしながらの貢献である。授業方法は講義と学生の意見によって構成する。毎回、小テストと学生の授業に対する意見を書いてもらい、次の授業の参考にしていける方法をとる。</p>			
学習目標			
<p>子どもの発達についての基礎的な知識を地域との関係で認識していくことを学習目標としている。とくに、子どもの発達を地域との関係、社会との関係で理解できるように学習目標をたてている。この具体的な事例として稲盛和夫が創設した児童養護施設の実践や京セラ国分工場の出前授業を紹介しながら、実践的に理解できるように学習目標をたてている。</p>			
授業計画・試験の有無 (16回に分け、回数、授業内容、自学自習等)			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 稲盛和夫の児童福祉実践—京都大和の家のとりくみ— 2. 稲盛和夫の子ども時代—鹿児島市西田小校区の歴史、自分の育った小学校の校区の歴史を自学自習 3. 稲盛和夫の人間発達観 4. 大原孫三郎と石井十次、日本の児童福祉福祉の歴史の自学自習 5. 郷中教育の地域教育からの現代的評価、それぞれの地域の郷中教育や地域教育実践を自学自習 6. 現代の貧困問題と子どもの虐待、子どもの虐待問題について自学自習 7. 現代の学校教育とじじめ問題、なぜいじめが起きるのかを自分たちの体験から考えてみよう 8. 習俗の子育てと地域 それぞれの地域の習俗の子育てを調べてみよう 9. 地域の暮らしと学校教育 生きる力を地域生活から考えてみよう 10. 農と小学校の教育実践 小学校時代をふりかえってみよう 11. 農によるカリキュラム開発 農の教育の役割を考えてみよう 			

- 12. 地域に根ざした食農教育実践 食の人間発達の意味を考えてみよう
- 13. 村づくりと学校経営 学校を拠点にした地域活性化は可能かを考えてみよう
- 14. 持続可能な発展のための教育と地域 持続可能な発展ということを自分の生活から考えてみよう
- 15. 企業の地域貢献と学校教育ー京セラの小学校への環境出前授業からー 企業の地域での役割を考えてみよう
- 16. 期末試験は実施しない。レポート提出

授業外学習(予習・復習)

自己の子ども時代の体験の整理と子どもの発達をめぐる問題状況に対しての情報を整理。その都度授業中に指示

受講要件	成績の評価基準
	毎回の授業の最後の小テスト(70%)、期末レポート(30%)によって評価する。
教科書	参考書
資料をつくって配布する。また、授業中に紹介する。	授業中に紹介する。
地域志向科目の区分(平成27年度入学生用)	地域志向科目の領域
その他	